



INSTRUCTIONS  
FOR USING  
**AIRES 35IIIc**

1:1.9    f=4.5cm



## アイレス 35 III C のお買上げに際して

アイレスカメラをお買上げ戴き厚く御礼申し上げます。

弊社は、二眼レフに於ては最高峰のアイレスオートマツト。35ミリに於てはトリミング・レンジ・ファインダー、ならびに、レンズシャッターマウント用の大口径F2レンズを日本で初めて完成いたしました。その優秀な技術は、すでに全カメラ人によって立証されております。

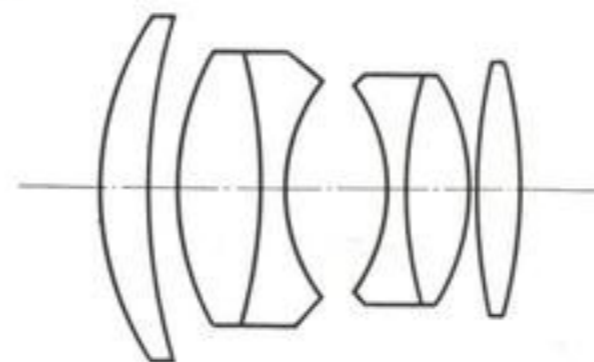
この技術陣と最新の機械設備によって完成された新製品アイレス35 III Cは、35ミリカメラの利点を遺憾なく発揮する高性能機であります。

従って、本機の性能、ならびに、品質については十分な自信を持ち、長期3ケ年にわたる品質保証を致しております。

適切な取扱いと手入れにより御愛用下さるよう願ひます。

## レンズ

H.コーラル 1 : 1.9  $f = 4.5 \text{ cm}$



(レンズ構成図)

H.コーラル1:1.9  $f = 4.5 \text{ cm}$ は、弊社の誇る技術と最新光学ガラスの使用により完成した4群6枚構成のレンズです。

解像力はもちろん画面構成力は、他に優るとも劣らない驚異的なもので、あらゆる撮影に適します。

35ミリカメラに要求される諸問題（大倍率の引伸に適した鮮鋭度、解像力、色収差、フレアー、絞りによる焦点移動、周辺光量等々）を申し分のないほどまでに解決しています。

アンバーコーティングはカラー撮影に優れた色調を見せます。

## シャッター

セイコーシャMXL

ライトバリュースステム・フルシンクロ

セイコーシャMXL型は、M・F・X接点の3段切替、10段変速(B 1  $\frac{1}{2}$   $\frac{1}{5}$   $\frac{1}{10}$   $\frac{1}{25}$   $\frac{1}{50}$   $\frac{1}{100}$   $\frac{1}{250}$   $\frac{1}{500}$  秒)のライトバリュース式の優秀シャッターです。

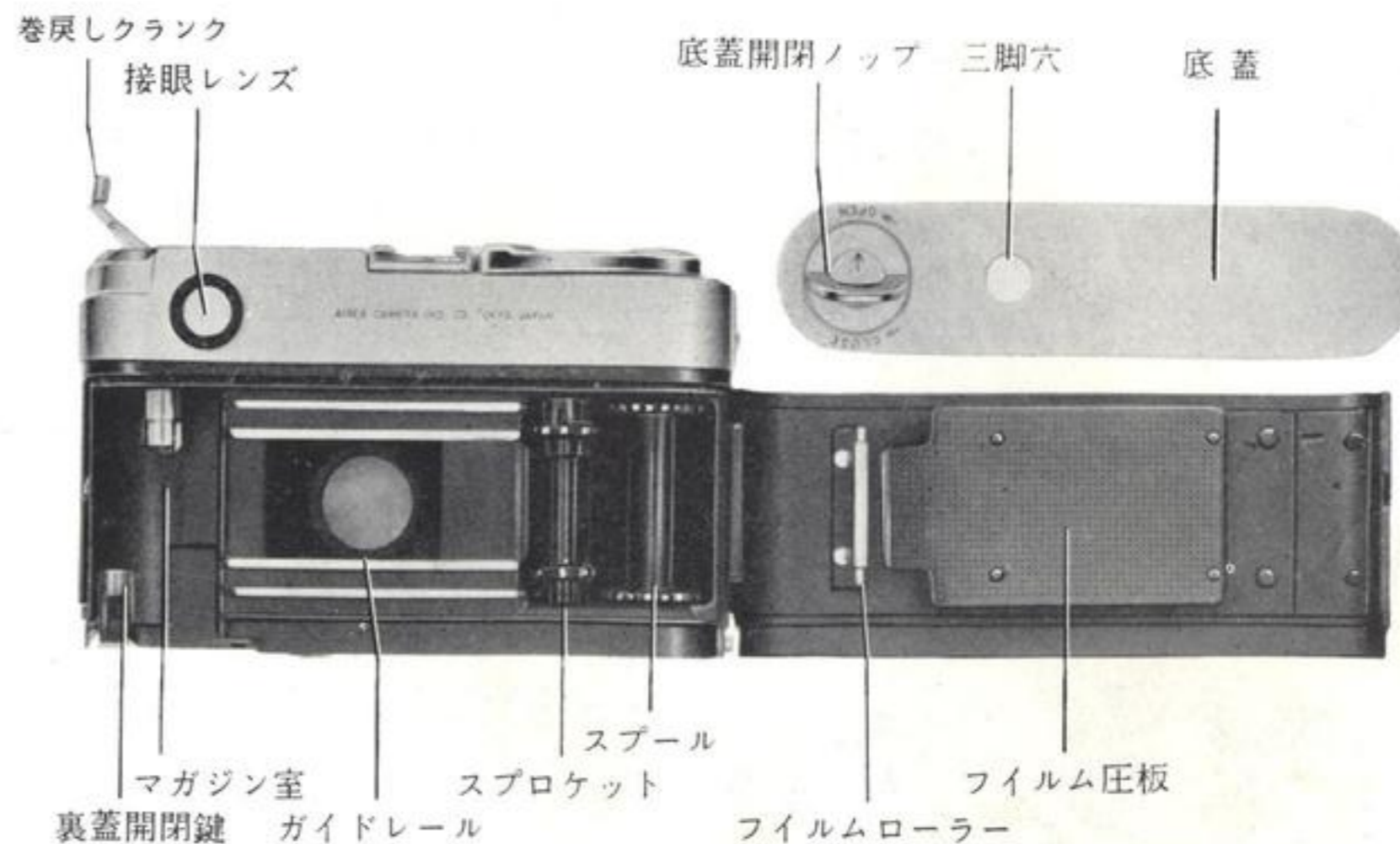
特に、シンクロ接点は、シャッタースピードの変化に応じて自動的にタイムラグ（電気接触時からシャッター全開時までの時間）が変り、シンクロします。

また、ライトバリュースシステムの採用により、常に同比率の適正露出が得られます。



# アイレス35ⅢCの使い方 ➡

## 機構と各部名称





## バララックス完全匡正 アイレス式“トリミング・レンヂ・ファインダー”

アイレス式“トリミング・レンヂ・ファインダー”は、日本で初めて完成したものであります。



### 写真説明……

トリミングファインダーから見たもので、白線内がフィルム面にうつる実画面です。中心の小さな白い窓はピント合せをする部分です。

従来のファインダーと全く異り、ファインダー全体が広く非常に明るい上に、極めて明瞭な光棒が見え、光棒内に見えるものが撮影画面になります。すでに、その優れた機構は独創的な5大特長と共に全カメラ人に賞讃されております。

本機には、さらに一段の精密さを加えたバララックス完全匡正装置が装着されました。

バララックス匡正装置とは、レンズ位置とファインダー位置によって生じる視差を自動的に匡正するものです。これによって、従来のファインダーにみられた近距離撮影の欠陥を完全に除去しました。

## 独創的な5大特長

- ① パララックス自動匡正により如何なる距離に於いても、視野の狂いが生じません。
- ② 広い視野内に見える明瞭な光棒によって被写体をトリミングしながら撮影できます。
- ③ 動いている被写体も、光棒の外から見えるので、シャッターチャンスを見逃しません。
- ④ 暗いところでも光棒が明瞭に見えるので、構図を見誤る心配がありません。
- ⑤ 接眼レンズが大きいので、眼鏡をかけたまま、楽に全視野を見ることができます。

### 正しいピントの合せ方(焦点調節)

トリミングファインダーを覗くと光棒の中心に、明るい小さな窓が見えます。この部分によってピント合せを行います。

焦点調節ノブを廻らすとこの部分だけで二重像が左右しますから、合致するまで動かして下さい。

この二重像が合致したときにピントが合い、像が二重に見えたときにはピントが合いません。

これは、距離計と撮影レンズが連動しているため、近距離から無限遠まで正確にピント合せができます。



(ピントの合わない場合)



(ピントの合った場合)



## ライトバリュースystem

### 素早く適正露出を得るための新機構

ライトバリュースystemは、絞りとシャッター速度(いずれも光量を調節する役目を果します)の連動によって、適正露出を素早く得るための新機構です。ライトバリュー(光値数またはL.V.)

とは、フィルム感光度(ASA100)と撮影明度(被写体の明るさ)を数字(光値数)にしたものです。たとえば、F11の $\frac{1}{50}$ 秒が適性な露出である場合、F8の $\frac{1}{50}$ 秒でも、F5.6の $\frac{1}{100}$ 秒でも露光量は同じです。これを機械的にしたものがL.V.システムです。

従来の露出の決め方は、絞りとシャッター速度を別々に合わせる、二操作方法でしたが、このL.V.システムの採用により、一操作でできるようになりました。

まず、露出計か、8頁の簡易露出表でL.V.を求め、絞り・ライトバリューリングを◆印の指標に合せます。合せたら“シャッター速度リング”と一緒に廻します。この一緒に廻る何段階かの範囲内は常に同一の光量となっていますから、撮影目的とその時の条件によって、自分の好む絞りが、シャッター速度に合わせて下さい。

尚、L.V.リングとシャッターリングと一緒に廻る何段階かの範囲外に出ますと、L.V.リングとシャッターリングとの連動機構がはずれ、自動的にL.V.が変る様になっています。

又、従来のカメラと同じ方法で、シャッター速度と絞りを別々に合せても差支えありません。この方法から逆にL.V.を求めることができます。

**注意**  $\frac{1}{500}$ 秒だけは、L.V.が連動していないので、L.V.目盛を一段上げて使用して下さい。例えばL.V.が12であった場合、L.V.リングとシャッター速度リングと一緒に、シャッター速度目盛の500の位置に廻してから、L.V.リングだけを13と一段上げて下さい。

## ライトバリュー目盛による簡易露出表

表1 標準適正露光表

[SS級(ASA 100)を標準としたライトバリュー]

被写体	春	夏	秋	冬
	3.4.5月	6.7.8月	9.10.11月	12.1.2月
海.山.雪.景. 展開した風景	16	17	16	15
普通風景	15	16	15	14
明るい街路 スナップ	14	15	14	13
戸外集合人物	13	14	13	12
戸外人物大写	12	13	11	10
日蔭又は窓際人物	11	12	10	9

例: SSを使用して春4月の昼頃戸外で太陽の光が十分に当たっている戸外の集合人物を撮影する場合には表1の左の第1例の4番目の項目になりますからライトバリューは13になります。この時、若し、SY48Cのフィルターを併用したとすれば表3により-1ですから $13-1=12$ になります。

フィルムがS級(ASA50)なら表3により-1で $13-1=12$ になりSSS級(ASA200)なら+1で $13+1=14$ となります。

注 ASA800. 400は増感現像を行う場合です。

表2 天候、時刻、L.V.係数表

天候	L.V.係数	時刻	L.V.係数
快晴	± 0	午前 10時 午後 2時	± 0
薄曇	- 1	午前 9時~10時 午後 2時~ 3時	- 1
普通曇	- 1.5		
極曇	- 2	午前 8時~ 9時 午後 3時~ 4時	- 1.5

表3 感光度、フィルター係数表

感光度 (ASA)	L.V. 係数	アイレス フィルター		L.V. 係数
		黒白用	カラー用	
800	+3	S L 39 C (無色)	# 1 A (Skylight)	± 0
400	+2	S Y 44 C (淡黄色)	# 81 B (Cloudy)	-0.5
200	+1	S Y 48 C (黄色)	# 85 (Type A)	- 1
50	-1	G 55 C (緑色)	# 85 C (Type F)	- 1
25	-2	S O 56 C (橙色)	# 80 A (Photo-flood)	-1.5
12	-3	S R 60 C (赤色)		-2.5



アイレス35Ⅲ Cは、シャッターのセットとフィルムの巻上げが同時に行えるセルフコッキング方式を採用しています。しかもフィルムの巻上げは、ワンセットレバー式です。

本機のフィルムの巻上げとシャッターセットは次のように行います。

- ① レバー面の手がかりに拇指をあててレバーを引き出します。
- ② 拇指をレバーにつけて右へ止るまで廻します。
- ③ 拇指を離すとレバーは元の位置に自動的に戻ります。

これでフィルムが1枚分送られて同時にシャッターがセットされます。回転角度はわずか120°ですから、いかなる連続速写にも最適です。

巻上げレバーを途中で止めるとシャッターはセットされませんから、止るまで巻上げて下さい。このために二重露出は完全に防止されます。多重露出を望む場合は別の装置により可能です。なお、本機には、フィルム巻上げ表示があり、この回転によりフィルム送りを確認します。



セイコーシャMXLシャッターは、M・F・Xの三接点に切替えられるフルシンクロ装置です。シンクロプラグはJISB型を使用しフラッシュ撮影に際しては、閃光電球の種類によって接点を使い分けて下さい。

M接点の場合にはM級閃光電球を使用し、F接点の場合にはF級閃光電球を使用すれば、各閃光電球の光量を無駄なく利用でき全秒時に同調させることができます。また、X接点はストロボ発光器用でストロボを使用すれば全秒時に同調します。

なお、M級をF接点で、F級をM接点でも使用可能ですが同調秒時に制限があり、全光量を利用できない場合が多いので、各級の閃光電球に各接点を合わせる使用法にして下さい。また、フラッシュ撮影をしない通常の撮影の場合には必ず接点の位置に注意しX接点に合せて下さい。

## マガジンシステムについて

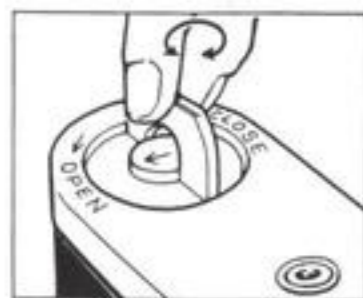
本機は本格的マガジンの採用により、パトローネ使用上の欠陥を完全に除きました。フィルムに傷をつけず、永久使用に耐え、フィルムの経済等の利点を誇るアイレスマガジンは、本機のマガジンシステムにより、カメラに装填し底蓋を閉めると、マガジン窓が開き、フィルムを円滑に送り、撮影後巻戻して底蓋を開ければマガジン窓は自動的に閉り、内部のフィルムを完全遮光します。本機は従来のパトローネも使用できますが、全く傷のつかない専用アイレスマガジンの御利用をおすすめいたします。



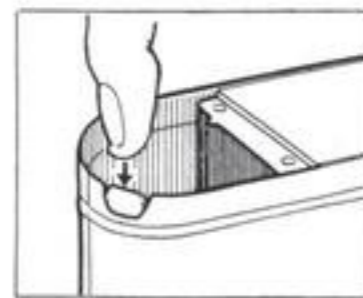


★フイルムの入れ方     アイレスマガジンにフイルムを入れたものを御用意下さい。

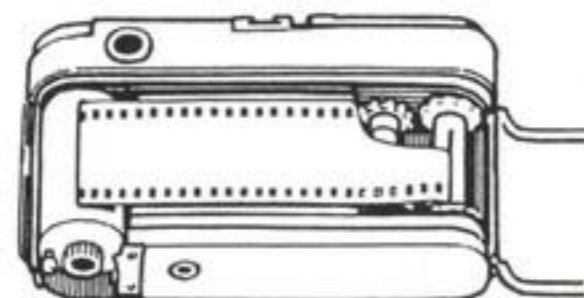
- ① 底蓋の開閉ツマミを廻わして矢印をOPENに合せて底蓋を取りはずします。
- ② 裏蓋開閉鍵を押し上げて裏蓋を開きます。そしてマガジンを入れます。
- ③ フイルムの先を巻取軸の溝に差し込みます。もし差し込み溝が適当な位置にないときは巻取軸を指で廻わして差し込み易い位置に動かします。
- ④ フイルムのパーフォレーション穴をsprocketの歯車にかみ合せ、フイルムを一回転か半回転、巻取軸に巻きつけます。
- ⑤ 確実にフイルムが巻かれる状態にしてから裏蓋を閉めます。
- ⑥ 底蓋をはめ、開閉ツマミを廻わして矢印をCLOSEに合せると底蓋は閉ります。
- ⑦ これで、フイルムが入り巻上げレバーを廻わせば、フイルムは1枚分送られ、シャッターも同時にセットされます。



(底蓋の開け方)



(裏蓋の開け方)



(裏蓋を開けてフイルムを入れる)

- ⑧ マガジンからでていたフイルムは、使えませんが最低2枚は空写しをして下さい。
- ⑨ 撮影準備が終了しました。あとはレバーによってフイルムを巻上げて撮影します。フイルムを巻上げて1枚写すごとに、フイルム番号表示窓の数字が進み何枚写したかを示します。

★フイルムの巻戻し方

フイルム番号表示窓に予定枚数の数字がでたら、マガジンの中にフイルムを巻戻します。

- ① 巻戻しレバーをRの方向に倒します。
- ② 巻戻しクランクを起し、矢印の方向に廻し巻戻しを行います。
- ③ こうして巻戻していくと、軽い抵抗を感じます。これは、フイルムの先がスプールからはずれる時の抵抗ですから、更に一、二回廻して完全にはずします。これでフイルムの巻戻しは終了します。
- ④ マガジンを取り出すには、マガジンを入れる時と同じ方法です。先づ底蓋を開け、裏蓋を開けて取り出します。

★ケーブルリリースの使い方

特殊撮影やスローシャッターを切る時の手振れを防ぐ場合等に使うリリースは、“シャッターリリースボタン”後方の“ケーブルリリース”穴に差し込んで使用して下さい。





すべての35ミリカメラは、横位置で写しよいように機構上作られていますので縦位置撮影は、比較的写しにくいこととなりますが、被写体によっては、縦位置で写す必要がありますから練習でよく慣れて下さい。

### ★横位置の構え方

横位置の構え方は両手でカメラを握りますが、右手でガッチリとカメラを保持し、人さし指をシャッターボタンに軽く当てます。左手はカメラに添えるようにして、中指か人さし指あるいは人さし指と親指で焦点調節をします。

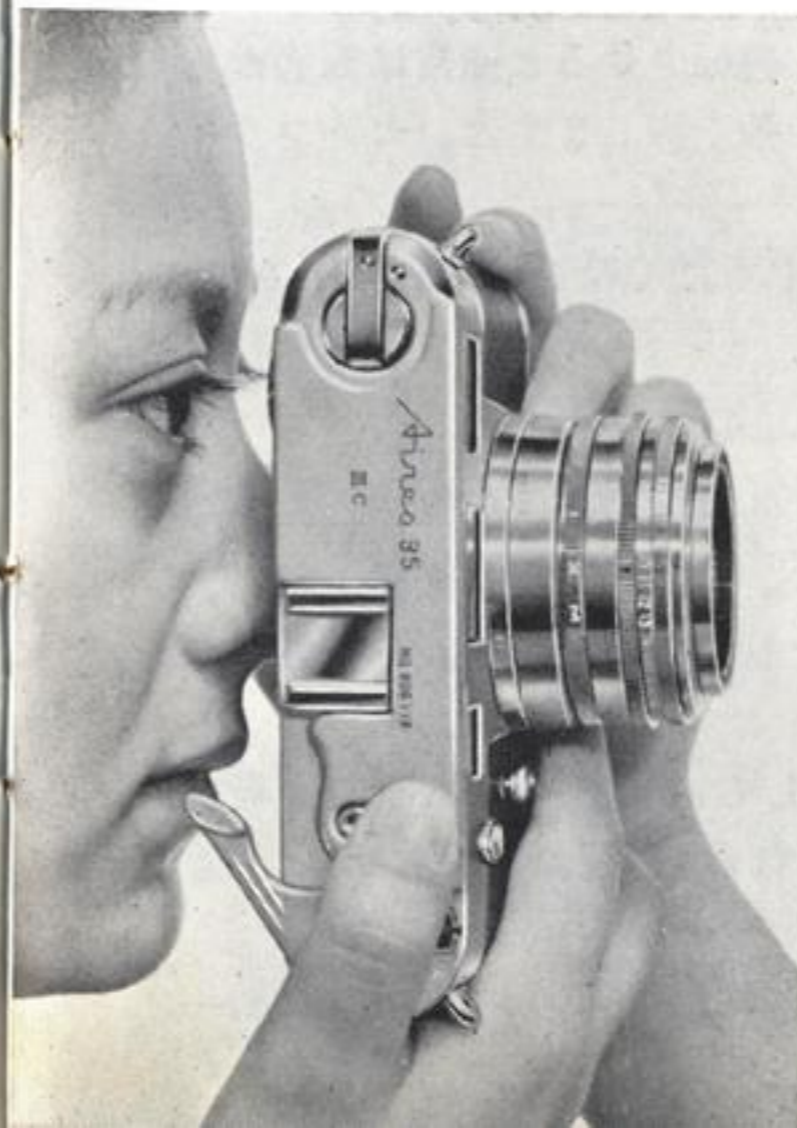
ファインダーをのぞく眼は、普通右の眼が多いようですか、左右どちらの眼でもよく、自分の都合のよい方を選んで下さい。いずれにしてもカメラを持った右手親指が頬につくよう顔に押しあてて安定させ、シャッターを切るようにして下さい。慣れると $\frac{1}{60}$ 秒や、 $\frac{1}{80}$ 秒も、手振れせずに写せるようになります。

### ★縦位置の構え方

縦位置の構えには、シャッターボタンを上、すなわち、右手を上にする構え方と、シャッターボタンを下、すなわち、右手を下にする構え方があります。横位置にカメラを握ったまま縦位置にしたのが前者で、シャッターボタンはそのまま人さし指で押せますが、フィルム巻上げのときに指が顔に当たって巻きにくく、ファインダーののぞき窓も下方に来るためカメラが上りすぎて不安定な気がいたします。後者は、カメラを握り変えて、親指でシャッターを押すこととなりますが、フィルムの巻上げはそのままで行えますし、ファインダーののぞき位置も、カメラが眼の中心にきて前者より安定します。

いずれも、一長一短ありますが要は使用者の好みと慣れにまつほかありません。御自身でお決め下さい。また、左右いずれの眼を使うかも御自身でお決め下さい。

この他、特殊な撮影の場合にこの基本の構え方を応用した方法がありますが、あなた自身の方法と慣れによって35ミリカメラの本領を発揮して下さい。





— アイレス35Ⅲ Cは撮影に際して

★ セルフタイマーの使い方

アイレス35Ⅲ Cには、セルフタイマーが装着されております。“セルフタイマーレバー”と“始動ボタン”から成っています。使用法は、シャッターをセットしてから、“セルフタイマーレバー”を下方に止るところまで廻転させます。レバーを廻転させると通常は表面から見えない始動ボタンが現われます。この“始動ボタン”をやや強く押しますと、セルフタイマーは作動し始め10秒前後でシャッターが切れます。

記念撮影や、自分で自分を写す時、スローシャッターの手振れを防ぐ時等に御利用下さい。

★ 多重露出装置の使い方

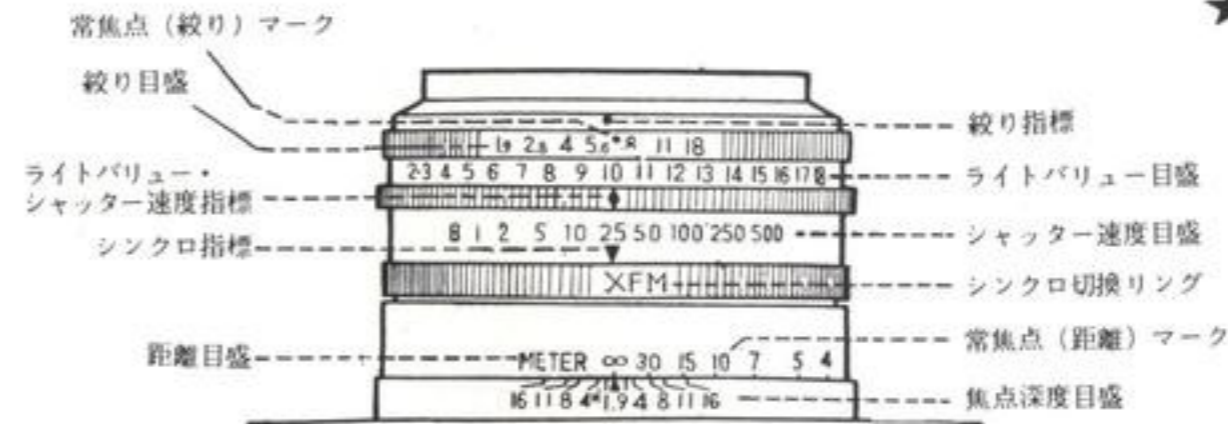
アイレス35Ⅲ Cには、多重露出装置があります。1枚のフィルム面上に、相異った二つ以上の被写体を写して一枚の写真を作る場合には最適であります。又、シンクロ撮影の時に、何らかの原因で、不発に終わった場合には、この多重露出装置を利用すればフィルムの無駄が防げます。

使用法は、“二重写し・巻戻しレバー”をDの矢印方向に倒して、“巻上げレバー”を巻上げると、フィルムは巻上げられずにシャッターだけがセットされます。これを繰り返せば、二重、多重露出が出来ます。

— 便利な機構を備えております —

★ 見易い目盛位置

本機が目盛（絞り・シャッター・焦点深度・距離等）は、全部上から一覧でき、速写に便利な見易い位置にあります。カメラを保持したまま 人さし指、中指で楽に調節できます。



Aires 35

★ 常焦点マークについて

常焦点とは、焦点距離を10m（赤色）に合せ、絞りをF 5.6とF 8の中間にある赤丸印に合せると、4.96mから無限遠までの全範囲にピントが合います。これを常焦点といいます。近景のあるパノラマ的な風景等の撮影には好果絶大です。御利用下さい。

★ 赤外マークについて

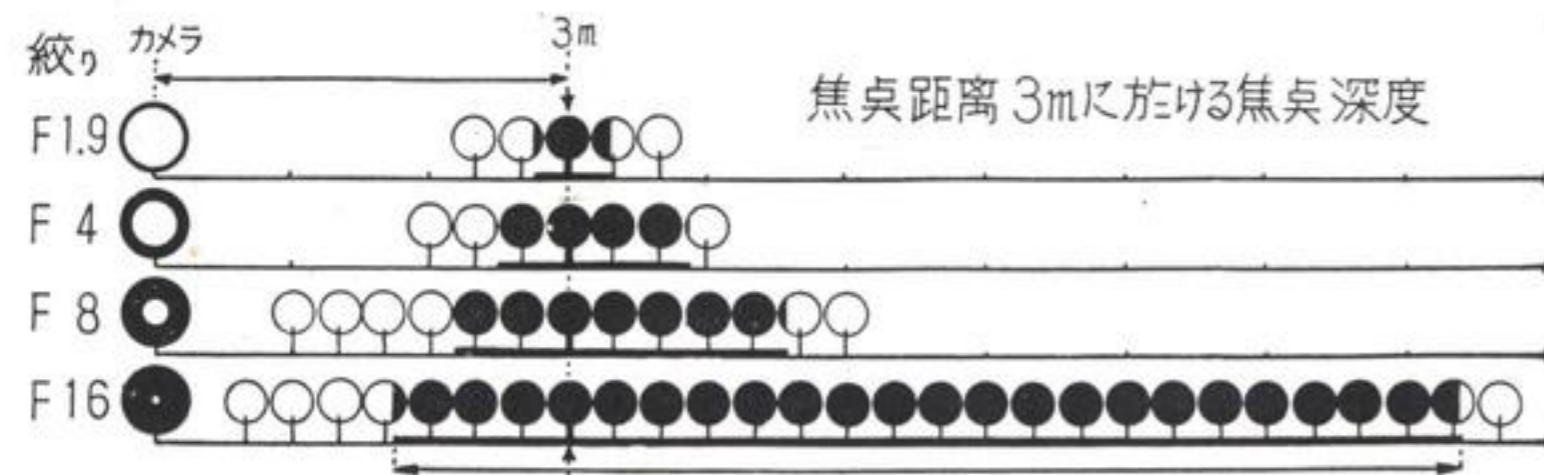
赤外線用フィルムを使う場合には、ピントを合せてから距離目盛を赤外マーク（R）にずらして写します。



## 焦点深度とは

レンズは、被写体にピントを合せると、その前後のある一定の範囲までピントが合いますが、それ以外はボケる性質を持っています。そのピントの合う範囲を焦点深度（被写界深度）といい、焦点深度は、焦点の前方に浅く後方に深く、且つ、近距離では深度の範囲が狭く、距離が遠くなるに従って範囲が広くなり、絞りを絞るほど深度が深くなる特性を持っています。

下図の通り焦点距離3mに合わせてF4に絞ると、2.56mから3.89mまでの範囲にピントが合います。この幅1.33mが焦点深度です。



## 焦点深度表

(AIRES H CORAL 1:1.9 f=4.5cm)

(METERS)

F	R	0.5	0.6	0.7	0.8	1.0	1.5	2.0	3.0	4.0	10	∞
1.9	Rv	0.49	0.59	0.69	0.78	0.98	1.44	1.90	2.77	3.61	7.86	36.57
	Rh	0.51	0.61	0.71	0.81	1.03	1.56	2.11	3.27	4.49	13.76	∞
2	Rv	0.49	0.59	0.69	0.78	0.97	1.44	1.89	2.76	3.59	7.77	34.75
	Rh	0.51	0.61	0.71	0.81	1.03	1.56	2.12	3.28	4.52	14.04	∞
2.8	Rv	0.49	0.59	0.68	0.78	0.96	1.42	1.85	2.68	3.45	7.13	24.9
	Rh	0.51	0.61	0.72	0.82	1.04	1.59	2.18	3.41	4.76	16.73	∞
4	Rv	0.49	0.58	0.68	0.77	0.95	1.38	1.79	2.56	3.25	6.35	17.4
	Rh	0.51	0.62	0.73	0.83	1.05	1.75	2.42	3.89	5.61	23.5	∞
5.6	Rv	0.48	0.57	0.66	0.75	0.93	1.34	1.72	2.42	3.03	5.55	12.5
	Rh	0.52	0.63	0.74	0.85	1.09	1.70	2.38	3.95	5.89	50.5	∞
8	Rv	0.47	0.56	0.65	0.73	0.90	1.28	1.63	2.23	2.74	4.67	8.76
	Rh	0.53	0.64	0.76	0.88	1.13	1.81	2.59	4.56	7.36	∞	∞
11	Rv	0.46	0.55	0.63	0.71	0.86	1.22	1.52	2.04	2.46	3.90	6.39
	Rh	0.54	0.66	0.79	0.91	1.19	1.96	2.91	5.66	10.7	∞	∞
16	Rv	0.45	0.53	0.60	0.68	0.82	1.12	1.38	1.79	2.10	3.07	4.42
	Rh	0.56	0.69	0.83	0.98	1.29	2.27	3.66	9.34	42.1	∞	∞

註 Rv は焦点の前方で、Rh は後方。



専用アクセサリーのご利用をおすすめします

アイレス35Ⅲ Cに専用アクセサリーとしてフード・フィルター・マガジン・ネックストラップが用意してあります。いずれもカメラの機構に最適に作ってありますから、ぜひご利用下さい。

★専用レンズフード

不要な光線がレンズに直射するのを防ぎ明快な写真を仕上げるのに役立つばかりか、降雨、降雪等々あらゆる撮影・天候にフードは役立つものです。室内でも常に使うように心がけましょう。

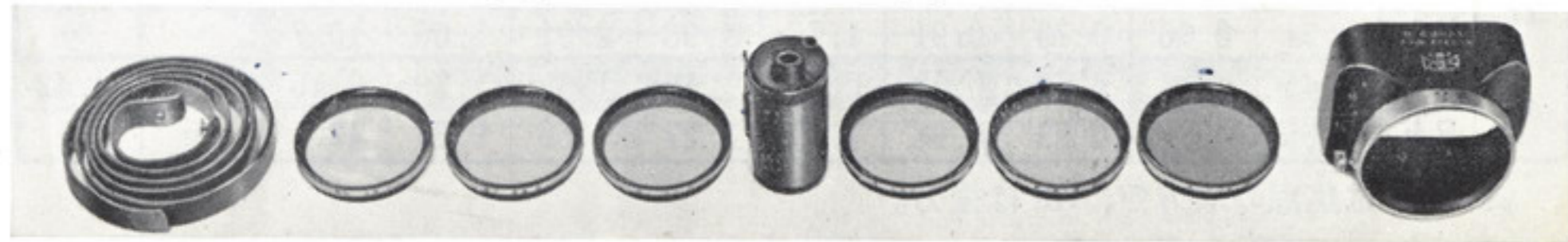
★専用フィルター

フィルターは自然の色彩や明暗感をそのまま写真にするために余分な光や強すぎる光を濾し、必要な光だけを濾し分ける役目を果します。

アイレスフィルターは、光学レンズと同様な製造工程で作られ、すべてコーティングを施してあります。黑白用に5種類、カラー用セット（3枚入）があります。

★専用マガジン

マガジンは、フィルムをつめる金属容器で従来のパトローネど異り、永久使用に耐え、フィルムに傷がつかなく、しかもフィルムが経済に使える、数を持つことによってフィルムの種類を使い分けられる等の利点をもった本格的マガジンであります。



カメラの手入れと保管

☆カメラの手入れは、御使用後必ずいたしましょう。

- ★ 金属部は、綿布などで軽く拭いて下さい。いつも美しいカメラをお持ち下さい。
- ★ 内部は、筆や刷毛でチリや砂を払って下さい。フィルム背面のキズの原因になります。
- ★ レンズは、むやみに拭いてはいけません。乾いたキレイな筆か羽毛でゴミを払う程度に止めて下さい。とくに汚れたときは、ゴミを払い、よく洗い晒した綿布にアルコールをつけて軽く拭くようにし、それでも取れないときはカメラ店か専門の処で御相談下さい。

☆カメラを使用しないときの御注意

- ★ シャッターの掛放しは、シャッターに悪影響をあたえます。特に $\frac{1}{2}$ 秒だけは補助スプリングがありますから、ダイヤルを廻わして $\frac{1}{2}$ 秒にして下さい。
- ★ ピントの調節ノブは、撮影が終わったら無限遠にお戻し下さい。不慮の大きなショックをカメラに与えた場合、ヘリコイドのレンズ露出部分に被害が少なくなります。

愛機の履歴

保証番号	No.	レンズ番号	No. 786126
購入年月日	33年 4月 21日	ボデー番号	No. 1200166
住所氏名			



アイレス カメラ

サービス ステーション

大阪：大阪市南区難波新地3番町54

TEL. 大阪 (75) 5419

福岡：福岡市川端町5

TEL. 福岡 (3) 4029

札幌：札幌市南1条西7丁目5

TEL. 札幌 (3) 3771

株式会社 **アイレス写真機製作所**

本社：東京都新宿区西大久保1丁目437

TEL 四谷 (35) 1111-9